


# 出張報告

報告日

令和3年12月15日

会 派 名	公明党
報告者氏名	若井恵子、真貝維義
種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 ( <input type="checkbox"/> 行政視察 ) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	青森県むつ市市議会議員との意見交換
日 時	11月25日(木) 13:20 ~ 11月25日(木) 16:30
場 所 (会 場)	青森県むつ市役所
調査項目等	むつ市議会議員との意見交換
概 要	<p><b>使用済核燃料中間貯蔵施設（RFS）使用済核燃料税について意見交換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むつ市議会から「使用済核燃料中間貯蔵施設新税調査検討特別委員会」の設置、「RFSに関する調査検討特別委員会」の設置をした経過並びに調査研究についての経緯を説明していただく</li> <li>・むつ市議会よりRFS及び使用済み核燃料税について、使用済核燃料税の基準額は1kg1300円であり、青森県が定めている六ヶ所村に建設中の再処理工場に搬入する際の核燃料物質取扱税の課税税率と同率であるとの説明をいただく</li> <li>・柏崎市議会からは柏崎市の「使用済核燃料税の条例」制定の経緯や「累進課税化」の経緯を説明</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

所 感 等	<p>「真貝維義」</p> <p>RFSは柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の見通しが見つからない中で事業計画が出せない状況にあると推察している。また青森県・むつ市との協議が整わないと使用済核燃料キャスクを搬入設置の安全審査を受けることができない。安全審査に対する規制委員会・規制庁の動向もなかなか方針が明確になっていないと感じる。事業者は安全工事対策に真摯に取り組み、一日も早い安全審査をクリアして国益及び地域振興にその責任を果たしていただきたい。これが立地地域の議員の思いであることを改めて確認した意見交換会であった。むつ市議会からは来年度に柏崎市議会・柏崎刈羽原子力発電所を視察していただく確約をいただいた。</p> <p>「若井恵子」</p> <p>むつ市は大変厳しい財政状況の中、中間貯蔵施設の誘致に至った。その経緯の中で、議会として平成13年より特別委員会を発足させて調査研究し、議論を重ね、誘致の判断を行ったと報告がなされた。現在、福島第一原子力発電所の事故に伴い状況が変わり、中間貯蔵施設の操業の見通しが示せない状況の中で立場は違うが、事業開始は両市にとって大変重要な事業であり、立地自治体として情報共有を図っていく必要性を感じた。</p>
-------	---